

平成28年度 北理研『冬のフィールド研修』の報告（速報版）

報告者 梅田 浩士（北広島高校）

2/18（土）～2/19（日）の2日間にわたって、『北理研冬のフィールド研修（生物研究部第2回研究協議会）』が実施されましたので報告します。今年度の冬のフィールド研修は、網走市の東京農業大学オホーツクキャンパス、東京農業大学オホーツク臨海研究センター、そして能取湖をフィールドにして、北理研の会員22名の参加で行われました。

1日目のテーマは、完全結氷した能取湖での「採氷等のフィールドワークとアイスアルジー観察」でした。研究協議Iでは、東農大アクアバイオ学科准教授の中川先生に率いられて、臨海センター正面に広がる能取湖に採氷実習に向かいました。南極での調査にも用いられるという高価な採氷用のドリルを使っての採氷を参加者で順番に体験しながら、海氷とアイスアルジー（海氷に閉じ込められた植物プランクトン）を取り出しました。



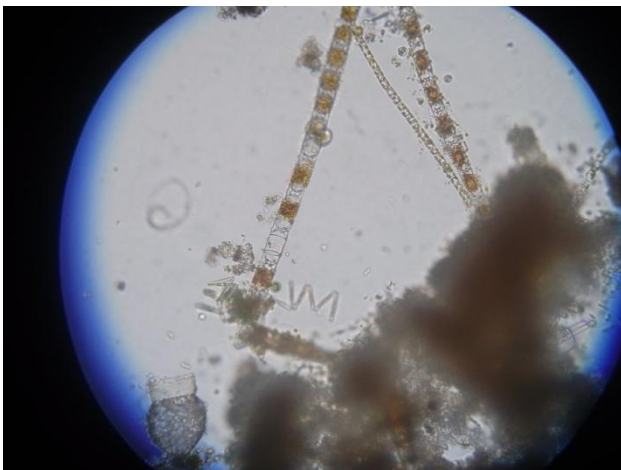
完全結氷した能取湖の上を歩いて移動



採氷実習の様子

実験室に移動して、海氷の性質、海洋におけるアイスアルジーの役割、流氷と定着氷の違いについての講義を受けました。中川先生の分かりやすい説明を受けてオホーツクの海の豊かさの根源となるアイスアルジーについての理解が一気に進みました。その後は採集した海氷内のアイスアルジーを顕微鏡で観察しました。多くの種類の珪藻を

同定することができました。個人的には植物プランクトンを濃縮して観察するテクニックに感銘を受けました。

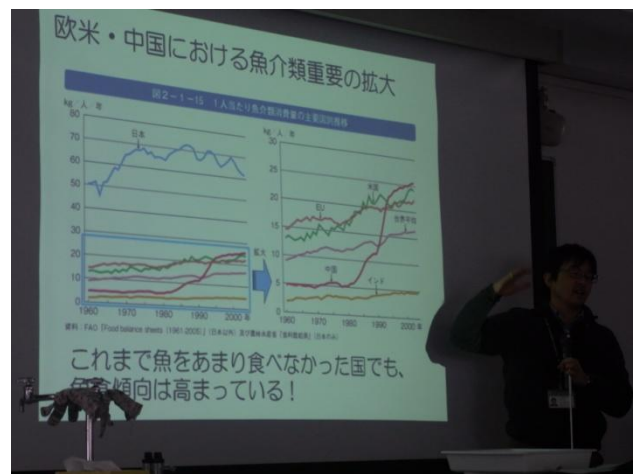


採集したアイスアルジーの観察

宿舎「B&B」に移動して、夕食前の1時間を使って、ワッカ原生花園での自然ガイドのボランティアを長年継続されている常呂高校の佐藤先生が講師となって、オホーツクの自然（特に、ワッカ原生花園の四季の様子）についての研修を行いました。佐藤先生によるオカリナ生演奏を聴きながら、佐藤先生によって編集したオホーツクの自然の映像を観ながら、癒しのひとときを過ごしました。夜の懇親会では会員相互の交流を深める大変良い機会になりました。

2日目のテーマは、オホーツクを代表する水産資源である「ホタテガイ」です。研究協議Ⅱでは東京農業大学アクアバイオ学科教授の千葉先生による「ホタテガイの水産増殖」の講義でした。世

界一のオホーツク海の漁業、水産増殖の現状、養殖と増殖の違い、ホタテの水産増殖などについて研修しました。生態系について学ぶことが、将来の漁業や水産増殖にとって如何に重要であるかが本当に良く理解できました。生態系を生徒に教える教師としては身が引き締まる思いでした。研究協議Ⅲでは「ホタテガイの解剖」を行いました。ホタテガイは観察しやすい大きさでもあり、身近な食材なので抵抗もなく軟体動物の構造について理解できる良い教材になり得ると思いました。



講義「ホタテガイの水産増殖」



ホタテガイの解剖

研究協議Ⅳでは、東京農大臨海研究センター内のトラフグやホタテガイ、ナマコなどの飼育水槽の観察、そして隣接する網走市水産科学センターの施設見学を行いました。事前に行った講義の内容を実際の見学をもって理解することができる良い機会となりました。



ホタテガイの飼育水槽（東農大臨海研究センター）



ホタテ種苗用の網（網走市水産科学センター）

今回の研修においては、東京農業大学オホーツクキャンパス、アクアバイオ学科の中川准教授、千葉教授の全面的な協力によってたいへん充実した内容にすることが出来ました。本当にありがとうございました。また、今年度の冬のフィールド研修には、初参加となる若手の先生方もたくさんいて若手同士、若手と中堅、そしてベテランの先生と、生物を担当する機会の多い会員同士の交流を深めることができました。

今後の北理研生物研究部主催の研修にも多くの先生方の参加をお待ちしております。参加者の皆さん、2日間ご苦労様でした！



帰路で立ち寄った「山の水族館」（留辺薬町）